

おかげさまで西武秩父線は開通 50 周年を迎えます
「西武秩父線開通 50 周年記念キャンペーン」を実施します
2019 年 7 月 14 日（日）～2020 年 3 月

西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：若林 久）では、7 月 14 日（日）から 2020 年 3 月まで、西武秩父線の開通 50 周年を記念し、「西武秩父線開通 50 周年記念キャンペーン」を実施します。

これは、地域と共に歩みながら、西武秩父線および西武秩父線の開通と同時に運行を開始した特急電車が今年 10 月 14 日（月・祝）に 50 周年を迎えることを記念し、これまで半世紀にわたってご利用いただいていたお客さまと沿線のみなさまへの感謝を込めて、実施するものです。

当社では、開通 50 周年を記念し 10 月に記念セレモニーを予定しているほか、7 月から順次「西武秩父線 50th×プラレール 60th 特別企画」、「特設 Web サイトの開設」、「記念乗車券の発売」、「各種イベント」など様々な取り組みを実施します。また、特急電車の運行開始 50 周年を記念したプロモーションも展開する予定です。詳細は決定次第、特設 Web サイトにて告知します。

西武秩父線は、地域発展の願いを込め、1967 年 7 月 19 日に建設工事を着工。およそ 2 年 3 ヶ月の工期を経て、1969 年 10 月 14 日、当時私鉄最長とされた正丸トンネル（4.8km）で山を貫き、埼玉県飯能市「吾野」駅と秩父市「西武秩父」駅とを結ぶ 19.0km の路線として開通しました。今日に至るまで、沿線の暮らしや秩父観光への要として多くのお客さまに親しまれてまいりました。

これからも西武鉄道は、西武秩父線が皆さまから愛される路線であり続けることを目指し、様々な取り組みを進めてまいります。

詳細は、別紙のとおりです。



西武秩父線開業式の様子



西武秩父線開通 50 周年記念ロゴ

【別紙】

西武秩父線開通50周年記念キャンペーンについて

1. 期 間

2019年7月14日（日）～2020年3月（予定）

2. 主な内容

- (1) 西武秩父線 50th×プラレール 60th 特別企画
「新駅誕生！？幻の『西武ちちプラレール駅』開業記念キャンペーン」の実施
- (2) 西武秩父線開通 50 周年特設 Web サイトの開設
- (3) 西武秩父線開通 50 周年記念セレモニー（予定）
- (4) 西武秩父線開通 50 周年記念乗車券の発売（予定）
- (5) 西武秩父線開通 50 周年記念ウォーク（予定）
- (6) 特急電車運行開始 50 周年記念プロモーション（予定）
- (7) 各種イベント

キャンペーン期間中、順次イベントを開催予定です。イベントは決定次第、「西武秩父線開通 50 周年特設 Web サイト」にて告知します。

3. その他

- ・内容は予定であり、予告なく変更する場合があります。

〈参考〉

- ・2019年7月4日発行ニュースリリース

「新駅誕生！？幻の『西武ちちプラレール』駅開業記念キャンペーン」を実施します

<https://www.seiburailway.jp/news/news-release/2019/20190704chichiplarail.pdf>

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL. (04)2996-2888

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

[営業時間：平日 9 時～19 時 土休日 9 時～17 時]

以 上

〈参考〉

～西武秩父線および特急電車の歴史について～

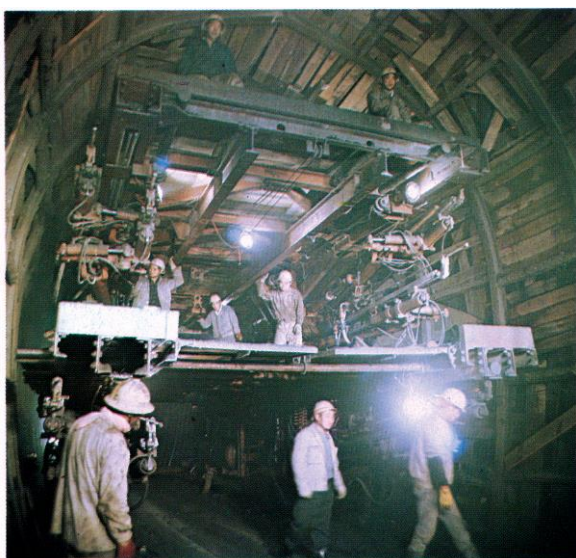
(1) 年表

1957年	西武秩父線工事の免許申請
1967年7月19日	建設工事の着工
1969年10月14日	西武秩父線（吾野～西武秩父駅）が開通 5000系特急レッドアローが登場
1970年	5000系特急レッドアローが「鉄道友の会」の「ブルーリボン賞」を受賞
1993年5月12日	天皇・皇后両陛下（当時）が特急電車にご乗車になり秩父へ
1993年12月6日	新宿線に10000系特急ニューレッドアロー登場
1994年10月15日	池袋線に10000系特急ニューレッドアロー登場
1995年10月14日	5000系特急レッドアローさよなら運転
2007年3月28日	天皇・皇后両陛下（当時）が特急電車にご乗車になり川越へ
2011年11月27日	レッドアロー・クラシック登場
2019年3月16日	池袋線に001系特急ラビュー登場

(2) 西武秩父線の歴史

当時私鉄最長とされた正丸トンネル（4.8km）で山を貫いた西武秩父線は、それまで東京から秩父まで3時間近くかかった国鉄（当時）高崎線や東武東上線から秩父鉄道に乗り換える経路に比べ、直通のレッドアローで池袋からわずか83分（現在は78分）という短絡ルートとして開通した。秩父が東京と直結することは地元住民の悲願であったこと、および都心部から手軽に行ける新たなレジャーの行き先となったことで大きな話題となった。

また、高度成長を続ける当時の日本にとって、武甲山をはじめとした豊富な石灰石資源がある秩父地域から都市部へ、石灰石を主原料とし都市の構築に不可欠なセメント輸送を可能にしたことにより、観光業界のみならず産業界からも大きく注目された。



正丸トンネルの難工事



開業日の西武秩父駅

多くの市民が新駅誕生を祝って駆けつけた

(3) 特急の歴史

■5000系レッドアロー

1969年10月14日に池袋～西武秩父駅間を運行する特急「ちちぶ」として運行開始。車体の赤い帯から連想される「レッドアロー」の愛称をもって、休日4往復、平日2往復、休前日には1往復のほか、夜間下り1本の特急「こぶし」が運行を開始した。1976年3月のダイヤ改正からは、池袋～飯能駅間を運行する特急「むさし」が誕生し、西武新宿～西武秩父駅間を運行する特急「おくちちぶ」も運行を開始した。

「フレッシュ&ヤング」をコンセプトとし、観光・ビジネス双方のニーズを意識して製作。車内は極力明るい雰囲気を出すことを念頭に、腰掛のモケットは1号車から若草、エンジ、ゴールド、ブルーと色を変え、秩父へ向かうお客さまを楽しませた。

新たに竣工した10000系ニューレッドアローと置き換えられる形で、1995年10月14日にさよなら運転を行い、惜しまれながらも5000系レッドアローは引退を迎えた。



5000系レッドアロー



定期営業運転最終日に社員有志による横断幕に迎えられた5000系レッドアロー

■10000系ニューレッドアロー

新宿線の特急列車運行開始と同時に5000系レッドアローの後継車両として登場した車両が、NRAこと10000系ニューレッドアローである。1993年12月6日に西武新宿～本川越駅間を運行する特急「小江戸」として運行を開始し、翌年1994年には池袋線5000系レッドアローとの置き換えが開始された。

5000系レッドアローの誕生から24年ぶりの新造となり、「ゆとりとやすらぎの空間」をコンセプトに時代に合った車両が求められた。5000系レッドアローが6両で定員が400名だったものに対し、10000系ニューレッドアローは7両で406名と「ゆとり」を追求。シートはグレーのリクライニングシートで内装もグレーで統一し、シンプルなものとなっている。

2007年3月28日には、新宿線西武新宿～本川越駅間で天皇・皇后両陛下（当時）の行幸が行われ、お召し列車として運行された。10000系ニューレッドアローは現在も池袋線・西武秩父線・新宿線で運行中。



10000系レッドアロー

■001系Laview（ラビュー）

10000系ニューレッドアローの登場から25年ぶりとなる新型特急車両として、2019年3月16日に池袋線・西武秩父線で運行を開始した。

建築家の妹島和世氏のデザイン監修のもと、「都市や自然の中でやわらかく風景に溶け込む特急」、「みんながくつろげるリビングのような特急」、「新しい価値を創造し、ただの移動手段ではなく、目的地となる特急」をコンセプトに、「いままでに見たことのない新しい車両」を目指して製作された。

先頭形状は球面形状とし、前面ガラスには曲線半径が1500mm（国内初）の三次元の曲面ガラスを採用。客室窓は沿線の景色を大パノラマで楽しめるよう、等間隔で縦1350mm×横1580mmにもなる大型窓ガラスを配置した。車体カラーは、アルミ素材の車体に塗装を施し、都市や自然の中でやわらかく風景に溶け込むデザインを実現した。

また、電源コンセントやFREE Wi-Fiをはじめ、当社初となる女性専用トイレやパウダールームを設け、拡大鏡やチェンジングボード、おむつ交換シートを設置するなど幅広いニーズに応えられるよう設計した。

車両形式を001系に、愛称をLaview（ラビュー）へと一新し、西武鉄道の次の100年に向けたフラッグシップトレインとして走り始めた。



001系 Laview（外観）



001系 Laview（内観）